

《第4部 働き方を〈シフト〉する》

◆第8章 第一のシフト

◆第9章 第二のシフト

◆第10章 第三のシフト

◆第8章 第一のシフト

ゼネラリストから「連続スペシャリスト」へ

「ゼネラリストの終焉」・・・なぜ、「広く浅くのゼネラリスト」ではだめなのか？ <過去の話>

- ゼネラリストが管理職を務めるという形態は、企業のあり方の一つの柱になった。
- ゼネラリストたちは、職業人生の大半を通じて、いわゆる「会社人間」になった。
- 自分の会社を熟知し、いつでもどこでも会社の代弁者になれた。
- ゼネラリストと会社の間には、終身雇用を保証するという「契約」があった。
- 自分の人生と引き換えに、会社が生涯にわたって、働く場を保障してくれた。



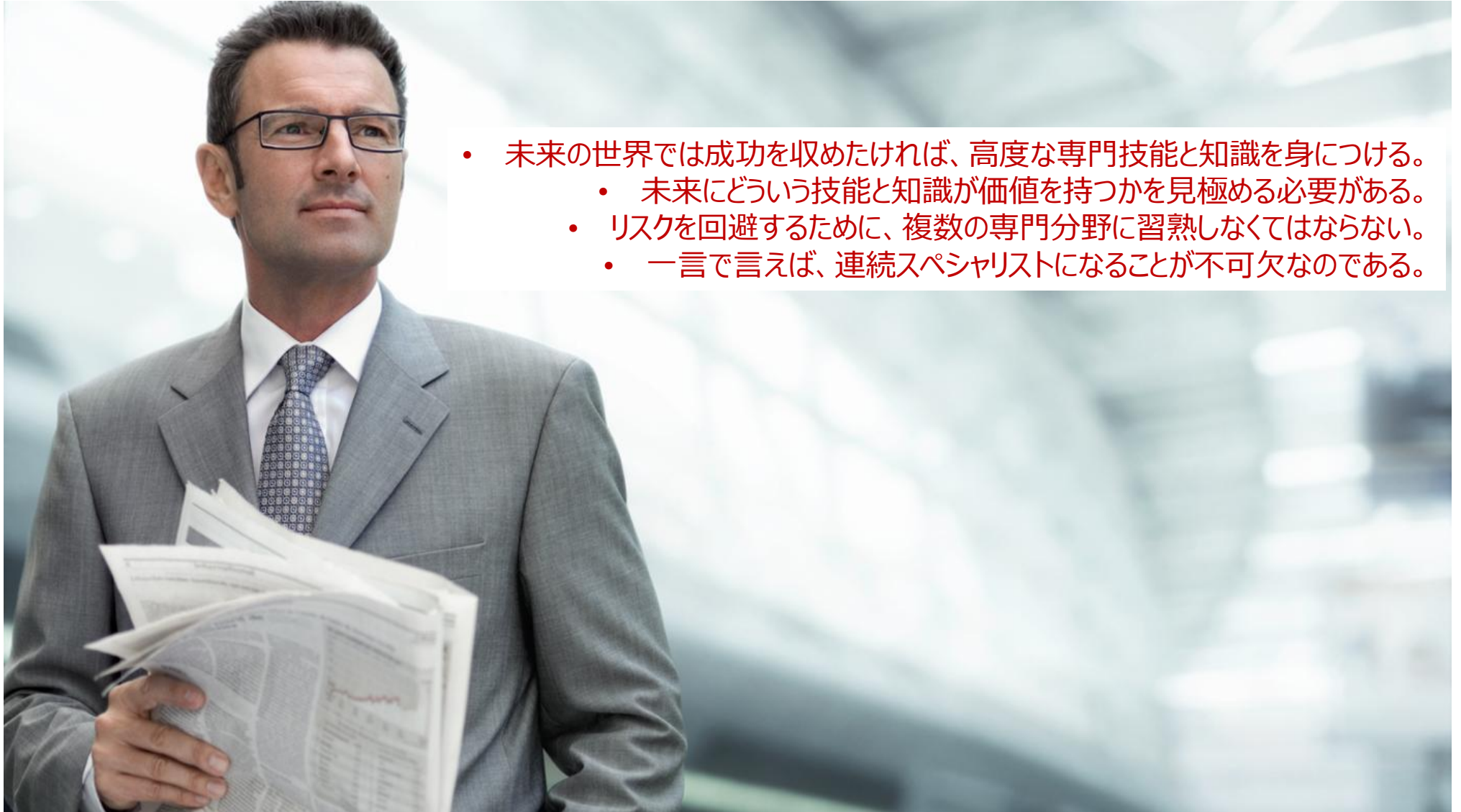
なぜ、「広く浅くのゼネラリスト」ではだめなのか？ <現在の話>




- 旧来の終身雇用の「契約」が崩れ始めた。
- ゼネラリストがキャリアの途中で労働市場に放り出されるケースが増えている。
- 彼らは広く浅い技能と知識しか蓄えていないせいで、窮地に立たされる。
- 現場管理職や、情報の収集、報告書の作成などを仕事にしてきた人たちも、厳しい環境に置かれる。
- 長い時間をかけて築いてきた人脈も、昔ほどの価値を持たなくなりつつある。
- 専門性の低いゼネラリストのマネジメント能力は、特定の企業以外で通用しない場合が多い。

なぜ、「広く浅くのゼネラリスト」ではだめなのか？

＜未来の話＞



- 未来の世界では成功を収めたければ、高度な専門技能と知識を身につける。
 - 未来にどういう技能と知識が価値を持つかを見極める必要がある。
 - リスクを回避するために、複数の専門分野に習熟しなくてはならない。
 - 一言で言えば、連続スペシャリストになることが不可欠なのである。



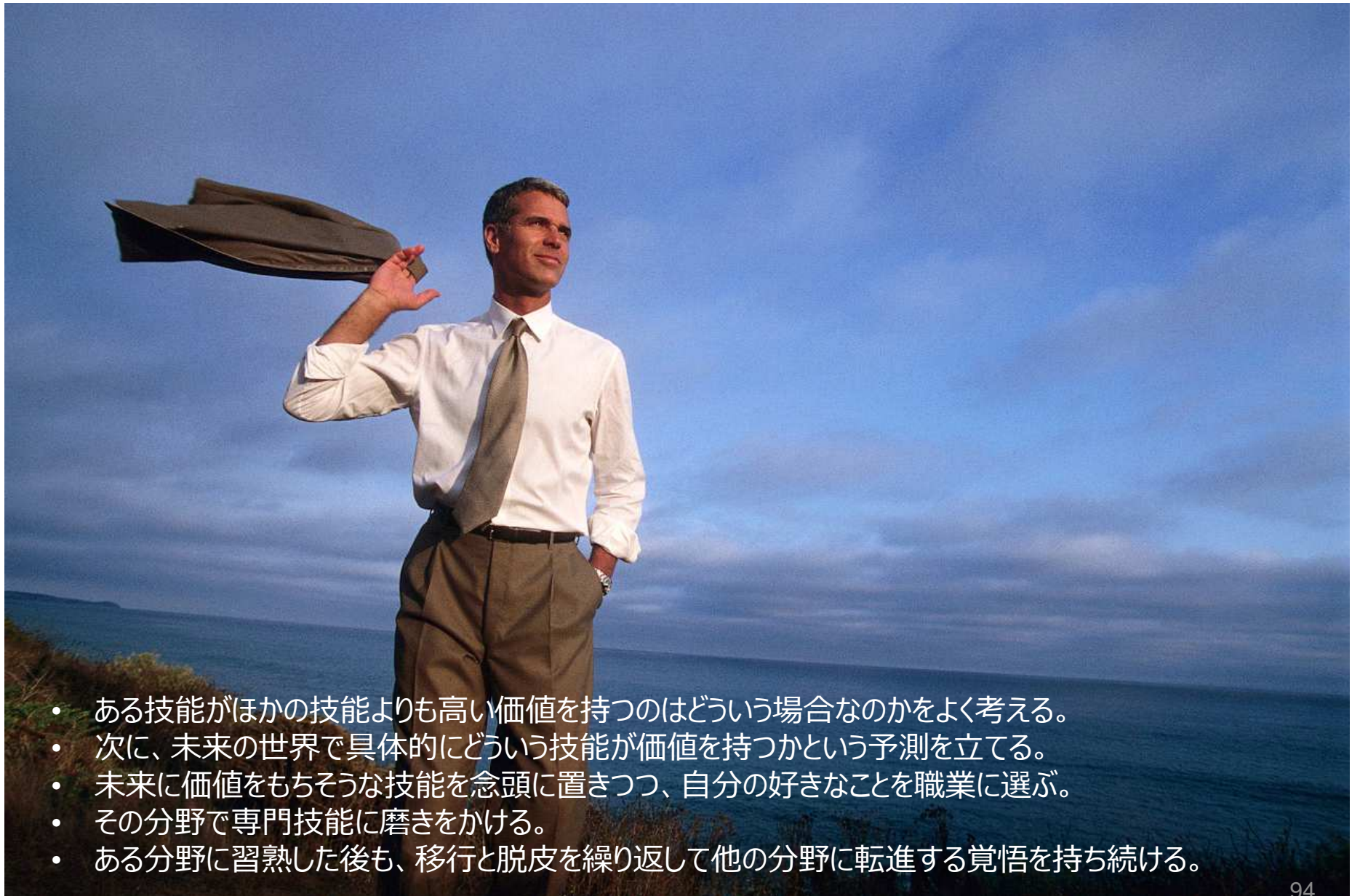
広く浅い知識しかもたない『ゼネラリスト』から、社会の変化に合わせて移動と脱皮のできる複数の専門技能を身につけた『スペシャリスト』へ。

仕事の世界で成功できるかどうかを左右する要因のひとつは、その時代に価値を生み出せる知的資本を生み出せるかどうかであり、そのためには広く浅い知識や技能を蓄えるゼネラリストを脱却し、専門技能の連続的習得者へシフトする必要があると著者は主張している。

広く浅い知識しか持ってない「ゼネラリスト＝なんでも屋」は、同じオフィスの同僚や、インド企業で同じ仕事をしている人たちと競い合うだけではない。人工知能やロボットや新開発のアプリケーションなど、テクノロジーの数々に取って代わられつつある。未来で成功するには、「専門技能の連続的習得」が求められる。

これからニーズが高まりそうな職種を選び、高度な専門知識と技能を身につけ、その後もほかの分野に脱皮したりすることを繰り返さなくてはならない。同時に、自分の能力を取引相手に納得させる「セルフマーケティング」も重要になる。

連続スペシャリストへの道



- ある技能がほかの技能よりも高い価値を持つのはどういう場合なのかをよく考える。
- 次に、未来の世界で具体的にどう技能が価値を持つかという予測を立てる。
- 未来に価値をもちそうな技能を念頭に置きつつ、自分の好きなことを職業に選ぶ。
- その分野で専門技能に磨きをかける。
- ある分野に習熟した後も、移行と脱皮を繰り返して他の分野に転進する覚悟を持ち続ける。

高い価値をもつ専門技能の三条件

- その技能が価値を生み出すことが広く理解されていること
- その技能の持ち主が少なく、技能に対する需要が供給を上回っていること
- その技能がほかの人に模倣されにくく、機械によっても代用されにくいこと



未来に押しつぶされないキャリアと専門技能

未来の世界で価値が高まり、希少になり、模倣されにくいと思われる専門技能の例。

- 専門技能1——生命科学・健康関連
- 専門技能2——再生可能エネルギー関連
- 専門技能3——創造性・イノベーション関連
- 専門技能4——コーチング・ケア関連



例えば・・・コーチングやケアなどの専門技能の価値がますます高まるだろう。経済学者のロバート・ライシュは、このタイプの仕事を「有償のケア」と呼び、英語の頭文字が「C」で始まる五つの職種に分類した。

コンピューティング（Computing）、ケアリング（Caring）、ケータリング（Catering）、コンサルティング（Consulting）、コーチング（Coaching）である。

未来に向けて、心がけること・・・あくまでも「好きな仕事」を選ぶ

未来が予測通りになる保証がないことを考えれば、自分が好きなことで、情熱をいだけることを職業に選ぶのが賢明だ。



あくまでも「好きな仕事」を選ぶ

…ましてや70歳代になっても働き続けるとすれば、本当に楽しめる職業を探した方がいい。



あくまでも「好きな仕事」を選ぶ

・・・そういう職種で成功できるかどうかは、仕事が好きかどうかによって決まる面が大きい。



あくまでも「好きな仕事」を選ぶ

・・・自分の仕事が嫌いだったり、あまり意義がないと感じていたりすれば、仕事で創造性を発揮できない可能性が高い。



あくまでも「好きな仕事」を選ぶ

・・・日々の仕事はさしあたり無難にこなせるかもしれないが、大好きなことに取り組むときのようなエネルギーはつき込めないはずだ。



高度な専門技能を身につける方法

一つは、特定の専門分野の枠を超えた幅広い人的ネットワークを築き、その中で複数の専門技能を組み合わせるという方法。大勢の多様な人たちと接点を持つことにより、さまざまなアイデアや発想に触れるのである。

もう一つは、自分自身で複数の専門技能を身につけるという方法。現在の専門分野の隣接分野に移動したり、まったく新しい分野に脱皮したりすれば、守備範囲が狭くなりすぎる危険性を回避できる。専門分野で高度な知識や技能を習得した後で、それを土台に隣接分野の技能や知識を磨いたり、忘れていた技能や知識を再び見出したりすればいい。

第一のシフトの要点

- ・未来に価値を持ちそうな技能を念頭に置きつつ、自分の好きなことを職業に選ぶ。
- ・その分野で専門技能に徹底的に磨きをかける
 - ・習熟後も、移行と脱皮を繰り返してほかの分野に転進する覚悟を持ち続ける。